

序 世界に通用する人に

平林国彦 (国連児童基金 UNICEF)

「なぜ私が五十歳になって新しい学校を創る気になったのか。それは、あなたたちに、真に世界に通用する人間に成長してほしいからなんだよ。」

柔らかな笑顔で、静かに優しく語られる田川先生の眼がキラリと光った。

この瞬間、私は、田川先生に娘を預けるべきだと確信した。以来、キリストの愛をもって命をかけ、生涯をかけて、教育への情熱に燃える田川先生のお姿に接するたびに、畏敬と深い感謝の念を抱く。

相手の身になって一緒に考えようとする日本人の一般的な性質は、今の複雑化する世界に、必要不可欠な価値観の一つである。自己の考えのみを主張するだけでは、永久に平和はこない。田川先生は、このことを身をもって示される。

私は、日本人の若者に、日本という枠組みを超えて、ぜひ世界の発展や平和という地球規模の課題に挑戦してほしいと思う。今の子どもたちに蔓延している「そこそこの生活ができれば、あえて無理をする必要がない。」という考えは、田川先生の心の中に、これまでも、そして未来永劫存在しない。

暁星国際学園の子どもたちには、田川先生という「生ける教科書」から、多くのことを学んでほしい。

